



忠 藤 忠 良 展

Sato Chuya

2010
6.16水 ▶ 8.1日

開館時間●10時～18時(入館は17時30分まで)

休館日●火曜日

入館料●一般500円、高校・大学生300円

中学生以下、身体障がい者、70歳以上無料
(前売り 一般400円 高校・大学生200円)

主催●佐世保市博物館島瀬美術センター、第11回共同巡回展実行委員会
後援●朝日新聞社、長崎新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社

読売新聞佐世保支局、ライフさせぼ、TOUCH VISION

KTNテレビ長崎、NBC長崎放送、NCC長崎文化放送

NHK長崎放送局、NIB長崎国際テレビ、TVSテレビ佐世保

西肥自動車(株)、松浦鉄道(株)

特別協力●宮城県美術館

助成●財団法人地域創造

前売券●佐世保市博物館島瀬美術センターおよび

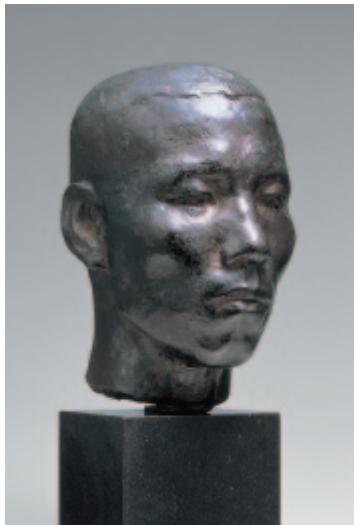
カフェクレア、佐世保市役所地下売店、

アートスクエアリブ、古賀文具店、

各地区公民館

佐世保市博物館
島瀬美術センター

〒857-0806 佐世保市島瀬町6番22号 TEL:0956-22-7213
<http://www.city.sasebo.nagasaki.jp/simabi/>



「このはづく」1970年

平成22年度市町村立美術館活性化事業 第11回共同巡回展
宮城県美術館 佐藤忠良記念館所蔵

佐藤忠良展

宮城県出身の佐藤忠良(さとうちゅうりょう 1912~)は、東京美術学校在学中から国画会展に出品し、1939年、新制作派協会の彫刻部創立に参加しました。しかし1944年に召集され、終戦から3年間のシベリア抑留を経験します。帰国後は新制作展を中心に活動を続け、1981年にはパリのロダン美術館で個展を開催するなど、その作品は内外で高く評価されています。

初期の「群馬の人」に見られる日本の風土に根ざした強い生命力と精神性をとらえた頭像や、「帽子・夏」をはじめとする1970年代の〈帽子〉の連作で表現された現代的な女性像、わが子や孫などをモデルにした子どもの像など、表現やモチーフは変わっても佐藤は一貫して人間を見つめて制作してきました。造形への厳しい眼差しによる抑制された表現の中にも豊かな詩情が溢れるこれらの作品からは、人間に対する深い愛情を感じられます。

全国4会場を巡回する本展覧会では、宮城県美術館 佐藤忠良記念館のコレクションより、初期から現在に至るまでの50余点の彫刻作品に素描を交えて展示し、戦後日本の具象彫刻界を代表する佐藤忠良の足跡を紹介します。



「チコ」1973年
(後期展示作品)

「帽子・夏」1972年

「風の子」1965年

佐世保市博物館 島瀬美術センター

〒857-0806 佐世保市島瀬町6番22号 TEL:0956-22-7213
<http://www.city.sasebo.nagasaki.jp/simabi/>



会期中イベント

□ギャラリートーク

日時:7月4日(日)・18日(日)、8月1日(日)
14:00~14:30

展示会場にて学芸員が作品解説を行います。

※参加無料、ただし本展の観覧券が必要です。

□講演会

「彫刻家 佐藤忠良の足跡」

日時:6月26日(土) 13:30~15:00

講師:三上満良氏(宮城県美術館学芸員)

場所:アルカスSASEBO

2Fスピカ 研修室2

定員:50名(先着順) ※聴講無料

□ワークショップ

「タナタイム★プロジェクト」

キーワードは〈たなごころ〉です。この言葉は〈てのひら=掌〉とも読み、手のこころ・手の中心という意味があります。蝶と紙粘土を使い、掌で【にんげん】を作り、今日という時間を形の中に籠めます。

蝶で作ったカタチは、粘土で包まれ見えなくなりますが、ここではみんなで「かたちの中心のカタチ」を想像して楽しめます。

日時:7月24日(土)

開催時間:(1回目)11:00~

(2回目)14:00~

対象:小学生以上(幼児の方は保護者とご参加ください)

講師:こいちりょうじ氏(美術家)

定員:40名(先着順)

参加費:500円

応募方法:事前に電話にて美術センターまでお申し込みください。